

2010年度
事業報告書

公益財団法人都市活力研究所

目次

概況	1
事業の状況	
1. 産業の活性化のための産学官の交流・連携を促進する事業	
(1) バイオ・ライフサイエンス分野におけるシーズ育成	2
(2) スーパーコンピュータの創薬産業利用促進研究会の企画・実施	2
(3) NPO 法人バイオグリッドセンター関西の運営支援	2
(4) 超高性能科学計算資源の産業利用促進策の調査	3
2. 産業の活性化のための産学官連携による研究開発事業	
(1) 創薬バリューチェーン・プロジェクトの推進	3
(2) 実証実験プロジェクトの推進	3
3. 産業の活性化のための人材育成、教育研修事業	
(1) IT Spiral の運営支援	3
(2) IT Keys の運営支援	4
(3) 大阪大学社会人教育講座セキュア・ネットワークセミナー2010	4
(4) IT 関係教育の社会人展開	4
(5) オープン・イノベーション・モデルを支える専門的人材育成及び人的ネットワーク形成方策に関する調査	4
(6) アーバン・イノベーション・セミナー（産業分野）の企画・開催	5
(7) スーパーコンピューティングコンテストの開催	6
(8) NEDO 講座の支援	6
4. 都市の活性化のためのまちづくりの調査研究、活動支援事業	
(1) 梅田地区エリアマネジメントの推進	7
(2) パーソナルモビリティの社会実験の企画・実施	7
(3) 新たなまちづくりのあり方についての研究会の企画・開催	7
(4) アーバン・イノベーション・セミナー（まちづくり分野）の企画・開催	7
(5) 彩都地区のまちづくりの推進	8
公益法人新制度への対応	10
処務事項	
1. 会議	11
2. 寄附行為変更にかかる大阪府知事認可等の日付及び内容	11

概 況

2010年度は、既存事業を継続すると共に、これまでの実績をベースにして将来に向けた布石として新たな事業にも注力した。新たな事業については、当財団が産学官連携のプラットフォームとして、地域クラスター形成と産業イノベーション及び新たな時代に対応したまちづくりを推進し、都市活力の向上に資することを基本方針として展開してきた。

産業の活性化のための産学官の交流・連携を促進する事業では、大阪のバイオライフサイエンス分野の土壌を活かし、製薬企業の協力を得て、シーズ育成のための相談会を新たに立ち上げた。また、スーパーコンピュータの創薬産業利用の促進のための研究会等の活動を引き続き実施し、製薬企業のニーズがその計画に反映されるように取り組んだ。

産業の活性化のための産学官連携による研究開発事業では、大阪大学等の研究機関が中心となるコンピュータ技術を活用した創薬に関する調査研究に引き続き参画し支援した。また、実証実験プロジェクト支援を引き続き実施した。

産業の活性化のための人材育成、教育研修事業では、IT Spiral、IT Keys を引き続き支援すると共に、「セキュア・ネットワークセミナー」、「スーパーコンピューティングコンテスト」に加えて、OACIS 講座、産業分野におけるアーバン・イノベーションセミナーを開催した。また、新たな取り組みとして、オープン・イノベーション・モデルを支える専門的人材及び人的ネットワーク形成のために、グローバル・ベンチャー・ハビタットを設置した。これにより、産業活性化のためのベンチャー支援のあり方について調査研究を進めた。

都市の活性化のためのまちづくりの調査研究、活動支援事業では、引き続き「将来の大阪シティスタイル研究会」開催等の梅田地区エリアマネジメントを推進するとともに、都心の商業、イベントをテーマにアーバン・イノベーションセミナーを開催した。また、「まちとライフスタイルの明日を探るセミナー」開催等によって彩都地区のまちづくりを推進した。

なお、当財団は、2010年10月に大阪府へ公益認定申請を行い、2011年3月に公益認定を受けて、2011年4月1日をもって公益財団法人へ移行した。

事業の状況

1. 産業の活性化のための産学官の交流・連携を促進する事業

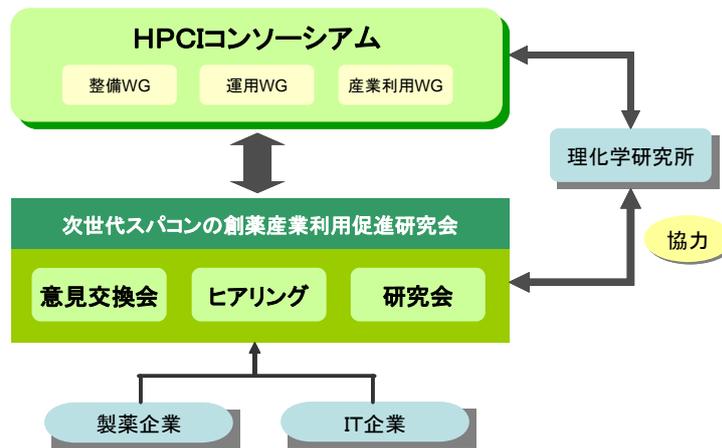
(1) バイオ・ライフサイエンス分野におけるシーズ育成

産業界における製薬企業などの実務者が、大学や研究機関等の有望な創薬シーズ、創薬基盤技術に対する評価を行い、研究開発の方向性についてアドバイスすることによって、産学官連携による研究開発、産業化支援等を推進する「創薬シーズ相談会」を大阪医薬品協会の協力により立上げた。2010年度は2回、3シーズについてこの相談会を開催した。

(2) スーパーコンピュータの創薬産業利用促進研究会の企画・実施

2012年度の完成に向けて、次世代スーパーコンピュータの建設が神戸市で進められている。これに合わせて、2009年度よりスーパーコンピュータの創薬産業利用促進研究会を組成し、製薬企業のニーズをその計画に反映させるように取り組んできた。2010年度は、この研究会において、理化学研究所の開発アプリケーションに対する意見交換会を3回開催し、製薬企業の意見の集約を行った。

また、この意見をもとに、NPO 法人バイオグリッドセンター関西とともに、超高性能科学計算資源（HPCI）コンソーシアムに産業利用促進に関する提言を行った。



次世代スパコンの創薬産業利用促進研究会のしくみ

(3) NPO法人バイオグリッドセンター関西の運営支援

バイオ研究者や製薬企業・IT・バイオ関連企業関係者の交流事業やプロジェクトメイキング等の事務局運営の支援を行った。

(4) 超高性能科学計算資源の産業利用促進策の調査

文部科学省では、次世代スーパーコンピュータと大学等の国内に点在するスーパーコンピュータを接続し、連携し協調して利用できる環境を超高性能科学計算資源(HPCI)として整備していこうとしているが、当財団のこれまでの経験に基づいて、この HPCI の産業利用を促進するために必要な可視化技術利活用拠点の事業化に向けた課題を整理し、今後の検討の方向性を取りまとめ、その内容を大阪市に提案した。

2. 産業の活性化のための産学官連携による研究開発事業

(1) 創薬バリューチェーン・プロジェクトの推進

コンピュータを活用した創薬の研究開発プロジェクトである創薬バリューチェーン・プロジェクトを引き続き推進した。

①抗がん剤開発プロジェクト(厚生労働省予算、2006～2010年度実施)

反応試験を基に計算機による化合物結合力の解析や合成を行い3つの候補化合物を同定した。

②知的クラスター創成事業プロジェクト(文部科学省予算、2007～2011年度実施予定)

感染症の原因である黄色ブドウ球菌を死滅させる化合物及びマラリア原虫の必須アミノ酸合成を阻害する化合物の探索を行った。

(2) 実証実験プロジェクトの支援

ICT(情報通信技術)、RT(ロボット技術)等の研究開発やそれを活用した事業創出を目指す事業者に対して、阪急三番街等の梅田商業施設の所有者等の協力を得て、実証実験の相談・助言及びその管理・運営のコンサルティング等の実証実験の支援を引き続き行い、3件の相談・助言を行った。その支援を実施する中で、実証実験のプラットフォームのあり方についての調査研究を行った。

3. 産業の活性化のための人材育成、教育研修事業

(1) IT Spiral の運営支援

IT Spiral は、高度なソフトウェア技術者の育成を目標として、関西圏の情報系9大学院が、4企業の協力を得て構築した、融合連携型の大学院の教育コースであり、2010年度は文部科学省の補助期間(2006～2009年度)終了後の初年度となるが、これまでに引き続いてアンケートの分析等の業務支援を行った。

(2) IT Keys の運営支援

IT Keys は、情報セキュリティに関する実践型人材の育成を目指して、関西圏の情報系 4 大学が、4 団体・企業が協力得て構築した、融合連携型の大学院の教育コースであり、2010 年度は文部科学省の補助期間（2007～2010 年度）の最終年度となるが、引き続き、演習を中心にプロジェクトの運営管理をサポートするとともに、外部評価委員会の開催、アニュアルレポートの作成等の業務支援を行った。

(3) 大阪大学社会人教育講座セキュア・ネットワークセミナー2010

情報セキュリティ技術をより深く学ぶことを目標として、セキュア・ネットワークセミナーを 2001 年度より開催している。2010 年度も、引き続き実施した。

□日 程：2010 年 10 月 28 日（木）～11 月 25 日（木）

□場 所：大阪大学中之島センター

□受講者数：11 名

□主 催：財団法人都市活力研究所、大阪大学サイバーメディアセンター

(4) IT 関係教育の社会人展開

大阪大学の産学連携の取り組みである IT 連携フォーラム OACIS の社会人向けの教育・研修事業の運営支援を行い、情報ネットワークに関して、基本技術編と最新技術編の 2 つのセミナーを開催した。

基本技術編「情報ネットワークの基本技術」

□日 程：2010 年 7 月 7 日（水）～7 月 28 日（水）

□受講者数：25 名

□場 所：大阪大学中之島センター

□主 催：IT 連携フォーラム OACIS、財団法人都市活力研究所

最新技術編「最新ネットワーク技術動向と将来展望」

□日 程：2010 年 11 月 5 日（金）～11 月 12 日（金）

□受講者数：34 名

□場所及び主催：基本技術編に同じ

(5) オープン・イノベーション・モデルを支える専門的人材育成及び人的ネットワーク形成方策に関する調査

オープン・イノベーション・モデルのための専門的人材育成及び人的ネットワーク形成のあり方の調査研究ために、グローバル・ベンチャー・ハビタットを設置した。株式会社サンブリッジの協力を得て、情報通信分野を中心とした、ベンチャーの起業、資金導入、海外進出、あるいは大阪進出の支援のあり方について調査研究

を開始した。

(6) アーバン・イノベーション・セミナー（産業分野）の企画・開催

産業の活性化に関わる最新の動向を紹介するセミナーとしてアーバン・イノベーション・セミナーを4回企画、開催した。

「大阪でのRT、ITを活用した街サービスの開発実証を振り返る」

□日 程：2010年7月12日（金）

□主 催：財団法人都市活力研究所

□共 催：財団法人大阪市都市工学情報センター、財団法人大阪市都市型産業振興センター

□実施内容：

第1部 事例報告

①e空間実証事業「光のマジカルクエスト in 阪急三番街北館～ポン・デ・ライオンと宝探し～」

株式会社電通 ビジネス・ディベロップメント・センター ソリューションデザイン室 志村 彰洋 氏

②ユビキタス・マーケットの開発実証

株式会社国際電気通信基礎技術研究所 知能ロボティクス研究所環境知能研究室室長 宮下 敬宏 氏

③産総館ロボラボでの実証実験の取り組み

財団法人大阪市都市型産業振興センター ロボットラボラトリー シニアプランナー 瀬川 寿幸 氏

第2部 パネルディスカッション「開発実証を振り返る」

コーディネーター：大阪市立大学創造都市研究科教授 兼学術情報総合センター所長 中野 秀男 氏

パネリスト：立命館大学情報理工学部情報システム学科 教授 西尾 信彦 氏

株式会社電通 志村 彰洋 氏

株式会社国際電気通信基礎技術研究所 宮下 敬宏 氏

財団法人大阪市都市型産業振興センター 瀬川 寿幸 氏

「スーパーコンピューティング・セミナー in KANSAI」

□日 程：2010年10月1日（金）

□主 催：スーパーコンピューティング技術産業応用協議会、財団法人計算科学振興財団、NPO 法人バイオグリッドセンター関西、財団法人都市活力研究所

□共 催：甲南大学、次世代スパコンの創薬産業利用促進研究会

□後 援：バイオスーパーコンピューティング研究会

□実施内容：

基調講演「蛋白の変異における構造予測」

甲南大学 先端生命工学研究所 所長 杉本 直己 氏

「生命科学のグランドチャレンジで開発しているアプリケーションの紹介」

理化学研究所 次世代計算科学研究開発プログラム

副プログラムディレクタ 姫野 龍太郎 氏

「実証的臓器代謝シミュレーションの開発と医学応用への展望」

慶應義塾大学医学部 部長、医学部医化学教室 教授 末松 誠 氏

「インシリコ創薬の実証実験プロジェクト『創薬バリューチェーン』について」

財団法人大阪市都市活力研究所 主席研究員 志水 隆一

「製薬会社におけるスパコンの活用と期待するところ」

塩野義製薬(株) 創薬・探索研究所 先端創薬推進部門 部門長 辻下 英樹 氏

「グローバルベンチャー成功への道と大阪の可能性」

□日 程：2010年11月11日（木）

- 主 催：財団法人都市活力研究所、株式会社ナレッジ・キャピタル・マネジメント
- 共 催：株式会社サンブリッジ
- 後 援：大阪商工会議所、社団法人関西経済連合会、財団法人大阪国際経済振興センター
- 実施内容：

特別講演「創業時から最先端 IT を生かそう」 ～Cloud2 のパワー～
 株式会社サンブリッジ CEO アレン マイナー氏

「ベンチャーだからこそマーケティング」
 シナジーマーケティング株式会社 代表取締役 谷井 等 氏

「企業のブランド価値をあげる人財育成」
 シルクロードテクノロジー 会長兼CEO アンドリュー “フリップ” フィリポスキー氏

「ナレッジ・キャピタルにおける国内外ベンチャーの可能性」
 株式会社ナレッジ・キャピタル・マネジメント 代表取締役社長 間瀬 豊 氏

「アントレプレナー体験談、そして大阪への期待」
 ～成功や失敗から学んだグローバルビジネスの秘訣～
 シルクロードテクノロジー 会長兼CEO アンドリュー “フリップ” フィリポスキー氏
 上級副社長兼COO プライアン ブラッツ氏
 シナジーマーケティング株式会社 代表取締役 谷井 等氏
 株式会社サンブリッジ CEO アレン マイナー氏

「選ばれる会社になるための CSR」

- 日 程：2010 年 2 月 2 日（木）
- 主 催：財団法人都市活力研究所
 株式会社ナレッジ・キャピタル・マネジメント
- 共 催：株式会社サンブリッジ
- 後 援：大阪府、大阪市、社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所
- 実施内容：

講演「選ばれる会社になるための CSR」
 CSR アジア東京事務所 日本代表 赤羽 真紀子氏

（7）スーパーコンピューティング・コンテストの開催

高校生・高専生を対象にした高いレベルのプログラミング技術を競うコンテストである「第 16 回スーパーコンピューティングコンテスト 2010」を大阪大学、東京工業大学主催のもと、共催して開催した。本年度は、東京工業大学のスーパーコンピュータを用いて課題を解くプログラムを作成し、その解答の正確さ、速さを競った。全国から 29 校 42 チームが参加した。



スーパーコンピューティング・コンテスト 2010

（8）NEDO講座の支援

東京大学・京都大学・大阪大学の 3 拠点が連携し、創薬に資する基盤技術に関して、人材育成を通し産業界に還元する目的で実施している蛋白質立体構造解析 NEDO 特別講座のホームページの運用に関する支援業務を行った。

4. 都市の活性化のためのまちづくりの調査研究、活動支援事業

(1) 梅田地区エリアマネジメントの推進

梅田地域におけるエリアマネジメントをテーマとして、企業・行政等の関係者が参加する「将来の大阪シティスタイル研究会」を本年度も引き続き開催した。2010年6月に今後の活動のあり方のとりまとめを行い、これまでの成果をホームページで公開した。

□将来の大阪シティスタイル研究会：

座長 村橋 正武 氏 大阪工業大学 立命館大学 教授
副座長 角野 幸博 氏 関西学院大学 教授
事務局 アークポイント、業態開発研究所デイス・シュール・デイス、当財団

(2) パーソナルモビリティの社会実験の企画・実施

ロボット技術を活用した新しい交通手段として注目されている二輪走行車等のパーソナルモビリティの普及・実用化を図る社会実験について企画の検討・立案を行い、関係各所との調整を図った。

(3) 新たなまちづくりのあり方についての研究会の企画・開催

新たな研究会の企画について関係者等と検討、調整を行い、官民学の参加により大阪都心の課題と今後のあり方、方向性を検討する「都心戦略検討会」として企画をとりまとめ、2回の準備会議をもった。正式な開催は2011年度より予定している。

(4) アーバン・イノベーション・セミナー（まちづくり分野）の企画・開催

都市の活性化に関わる最新の動向を紹介するセミナーとしてアーバン・イノベーション・セミナーを2回企画、開催した。

「キタの商業とまちづくりを考える」

□日 程：2010年7月30日（金）

□主 催：財団法人都市活力研究所、大阪商工会議所

□協 力：財団法人大阪市都市工学情報センター、将来の大阪シティスタイル研究会

□実施内容：

講演「大阪の商業の近未来予想図」

関西学院大学 商学部 教授

石原 武政 氏

「大阪商工会議所の流通担当業務について」

大阪商工会議所 理事・中小企業振興部長

森 清純 氏

パネルディスカッション「キタの商業とまちづくりを考える」

関西学院大学 商学部 教授

石原 武政 氏

関西学院大学 総合政策学部 教授

角野 幸博 氏

財団法人大阪市都市工学情報センター 理事長

箕田 幹 氏

(コーディネーター)

財団法人都市活力研究所 所長

坂田 清三

「まちを舞台とする集客イベントと都心の活性化」

□日 程：2010年12月7日（火）

□主 催：財団法人都市活力研究所

□共 催：大阪商工会議所

□協 力：財団法人大阪市都市工学情報センター、将来の大阪シティスタイル研究会

□実施内容：

講演「集客イベントによるまちの魅力づくり」

大阪市ゆとりとみどり振興局 総務部まち魅力担当課長

阪東 正紀 氏

パネルディスカッション「集客イベントと都心の活性化」

関西学院大学 総合政策学部 教授

角野 幸博 氏

中之島まちみらい協議会 幹事

林 敏一 氏

御堂筋まちづくりネットワークプロモーション部会 部会長

寺田 憲二 氏

梅田スノーマンフェスティバル実行委員会 実行委員長

松村 弘三 氏

(コーディネーター)

財団法人都市活力研究所 所長

坂田 清三

（５）彩都地区におけるまちづくりの推進

①まちとライフスタイルの明日を探るセミナー

まちとライフスタイルをテーマとして郊外における都市や住宅のニーズとその変化、今後のまちづくりのあり方等を考える連続セミナー「まちとライフスタイルの明日を探るセミナー」を1回開催した。

「これからのまちづくりとコミュニティ」

□日 程：2011年3月8日（火）

□主 催：財団法人都市活力研究所

□後 援：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会

□協 賛：阪急電鉄株式会社、阪急不動産株式会社

□実施内容：

基調講演「柏の葉のまちづくりとUDCK」

柏の葉UDCK 副センター長

三牧 浩也 氏

パネルディスカッション「これからのまちづくりとコミュニティ ～柏の葉と彩都～」

柏の葉UDCK 副センター長

三牧 浩也 氏

武庫川女子大学 教授 (株)PPI 計画・設計研究所 取締役会長

三好 庸隆 氏

コミュニティ彩都

松尾 友佳子 氏

(コーディネーター)

大阪大学 教授

澤木 昌典 氏

②彩都健康都市構想の事業化推進に関する調査研究

彩都における健康をテーマとするまちづくりの構想を推進するために彩都健康スポーツカレッジ実行委員会に参画し、関係機関等とともにスポーツをテーマとするイベント「彩都健康スポーツカレッジ」を2回開催した。また、子どもの体力向上への地域での取り組みについて、研究会を開催し検討を行った。

第1回「彩都健康スポーツカレッジ」

□日 程：2010年4月17日（土）

□参加者数：約 250 名

□主 催：彩都健康スポーツカレッジ実行委員会（※）、朝日新聞大阪本社広告局

□後援等：茨木市教育委員会、箕面市教育委員会、彩都立地健康関連企業、彩都バイオヒルズクラブ他

（※ 彩都健康スポーツカレッジ実行委員会：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会、大阪保健医療大学、アスリートネットワーク、大阪ガス、茨木市、箕面市、財団法人都市活力研究所）

第 2 回「彩都健康スポーツカレッジ」

□日 程：2011 年 3 月 26 日（土）

□参加者数：約 400 名

□主催及び後援等：第 1 回に同じ

公益法人新制度への取組み

2008年12月1日に施行された公益法人制度改革三法（一般社団・財団法人法、公益法人認定法、整備法）の施行より5年以内に、「一般財団法人」または「公益財団法人」へ移行しなければならないが、当財団では、「公益財団法人」への移行を目指し、2009年度から実施してきた事業の再編等の準備を進め、2010年10月12日に大阪府へ公益認定申請を行った。この申請内容について大阪府及び大阪府公益認定等委員会の審査を受けた結果、大阪府公益認定等委員会の答申により、2011年3月24日付けで大阪府の認定を受け、2011年4月1日の移行登記をもって公益財団法人に移行した。

処務事項

1. 会 議

理事会・評議員会等

会議名	開催日	議案	
臨時理事会	2010年6月10日	1	評議員1名選任の件
		2	最初の評議員候補者推薦の件
評議員選定委員会	2010年6月14日	1	最初の評議員選任の件
43回理事会 43回評議員会	2010年6月24日	1	2009年度事業報告書並びに決算報告書承認の件
		報告	評議員1名選任の件（評議員会のみ）
		報告	公益財団法人移行後最初の評議員決定について
		報告	公益法人移行申請の進捗状況について
臨時理事会 臨時評議員会	2010年9月27日	1	定款の変更案策定の件
		2	役員等報酬支給規程策定の件
		3	公益認定申請に関わる基本事項決定の件
		4	2010年度補正予算承認の件
		5	基本財産及び寄附金の運用に関する規程策定の件
		6	理事会、評議員会及び監事監査に関する規程策定の件
		報告	顧問1名就任の件
臨時評議員会	2011年3月3日	1	公益財団法人設立に伴う理事並びに監事選任の件
臨時理事会	2011年3月3日	1	専務理事選任の件
44回理事会 44回評議員会	2011年3月17日	1	2010年度収支予算補正の件
		2	2011年度事業計画書並びに収支予算書策定の件
		報告	公益財団法人への移行について

2. 寄附行為変更にかかる大阪府知事認可等の日付及び内容

- 2011年3月24日 公益移行認定
- 2011年4月1日 公益移行登記（「財団法人都市活力研究所」を名称変更し、移行したことにより「公益財団法人都市活力研究所」を設立）